

令和6年度 学校評価総括表

香芝市立香芝東中学校

教育目標	感性豊かな心としなやかな身体を育む					総合評価						
運営方針	生徒一人ひとりを大切に、何事にもチームで取り組む											
前年度の成果と課題	本年度の重点目標											
◇新学習指導要領を意識した教育目標を具体化する方策を明らかにする必要がある。 ◇生徒たちは落ち着いて学校生活を送っている。不登校生徒の実態がより複雑・深刻化し、見えにくくなっており、継続的かつ組織的に取り組む必要がある。 ◇コロナ禍で学校行事の多くに制限がかかり、体育大会においても限られた時間の中で効果的な練習を行い、無事に開催できた。これまでの慣習にとらわれず、学校教育目標の達成に向けて工夫して取り組んでいく必要がある。 ◇コミュニティ協議会と連携し、熟議を行い実効性のある活動にしていく必要がある。	(1)生命と人権を尊重し、人間性豊かな心を育てる	B	(2)自分を大切にすると共に、まわりの人を大切にすることを育てる	B	(3)確かな学力の定着を図り、「生きる力」の育成に努める	B	(4)善悪の判断力と道徳心を高め、正しいことを実践する行動力を育てる	B	(5)体力の向上に努め、心身の健全な育成を図る	B	(6)地域や社会のことを知り、より良い社会を目指す心を育てる	
	教育活動や分掌等		評価項目		具体的方策・評価指標等		評価		成果と課題(評価の分析)		課題の改善策等	学校関係者評価
	学校運営		教育目標		生徒一人ひとりを大切にすることを基軸に据えた具体的な教育目標の設定		B		新学習指導要領を意識した教育目標を掲げ、数年かけて教職員や生徒をはじめ保護者や地域住民にも共有していきたい。		◇新学習指導要領の理念を理解し、教育目標を各教科・領域においてさらに具体化する方策を検討したい。	◇どの学年も落ち着いた雰囲気での授業が進められていてよかった。
			組織・校務分掌		働き方改革を実現するためのより効果的な組織や校務分掌の構築		B		校務支援システムやSSSが定着し働き方改革は一定前進した。今年度もスリム化を念頭に置いた校務分掌の見直しは進められなかった。		◇教職員が子どもと向き合う時間を十分に保障するため、SSSや校務支援システムをうまく活用しながら働き方改革をさらに進めていきたい。	
	学校評価		自己評価		生徒および保護者へのアンケートをもとにした自己評価の実施と公表		A		生徒と保護者にアンケートを実施し、職員会議で分析結果を共有し、HPIにより公表した。		◇Web方式での保護者アンケートで6割程度の回答率を得ることができた。記述式での回答部分には前向きな意見や改善を期待する意見が多数出されており、それを意識した学校づくりを進めたい。	◇不登校生徒への学習支援として、自宅等の学校以外の場所でタブレットを活用したオンライン学習をさらに充実させてほしい。
			学校関係者評価委員会		学校関係者評価委員会による評価の実施と公表		B		自己評価結果を学校関係者評価委員会に提示し、HPIにより公表した。			◇タブレットやICTを活用した学習はもちろん大切だが、読む力や書く力を育てることも重要である。
学習指導	基礎学力の定着	小グループでの学び合いによる「低学力」層の引き上げ	B	講義型の授業中心から、グループ学習による学び合い・学力向上の取組を一部再開することができた。楽習部やタブレット端末によるドリル演習などを活用した学力定着を目指した。	◇新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びのある授業の実現に向けて、改めて確認し合う機会を設け、今後の授業づくりの方向性について模索していきたい。	◇中学校3年間での生徒たちの成長には驚くことが多い。ひとえに先生方の日々の取組の成果だと思う。						
		「楽習部」による日常的な学習支援の実施	A	学習面に課題を抱える生徒が自主的に参加し、教員やボランティアの支援を受けながら、学習を進める場として定着している。								
	指導方法の工夫・改善	新学習指導要領の完全実施に向けた自己研修と学年による授業研の実施	B	GIGAスクール構想により、教科の枠にとらわれずOJTが積極的に行われたことで、タブレット端末を使った新しい形の学びを導入することができた。	◇生徒へのタブレット端末導入による教育のICT化に順応するため、教職員同士の学び合いを一層進め、職員室での授業づくりについての会話をより活性化させ、すべての生徒にとって確かな学びのある授業の創造をめざしていきたい。	◇学習評価について、保護者の関心が高い。より丁寧な評価の説明を願いたい。また、進路に関する情報の提供も早いうちから周知してほしい。						
		小グループを中心とした主体的・対話的な学びのある授業の創造	B	以前取り組んでいた小グループによる学習が一部再開することができた。学校全体での取組に拡大するとともに、ICTを活用した指導方法の工夫・改善を考える必要がある。	◇管理職による授業観察をさらに充実させるとともに教科ごとの授業研究を定期的に行い、若手教員の指導力の向上をはかっていきたい。							
学習意欲の向上	問題解決的な学習による探求的な学びの創造	B	生徒が疑問を抱き、夢中になって取り組める課題づくりなど教員の指導力を向上させ、探究的な学びの実現に向けた取組を進めていきたい。									
生徒指導	規範意識の醸成	学校・社会のルールやマナーを守る生徒の育成	A	およそ9割の生徒が学校・社会のルールやマナーを守り、規律正しく生活できていると回答している。守れていない生徒にはいけない指導を行った。	◇不登校の要因は様々であるが、本校の重要な教育課題であると捉え、一人ひとりに丁寧に関わり続けていきたい。タブレット端末を活用して学校とつながる機会を持たせる取組をさらに拡げていきたい。	◇登校の見守り中や学校に訪問した際など、自分から挨拶してくれる中学生が多くなってきている。生徒会の取組や先生方の指導の表れだと思う。						
	いじめ・不登校対策	いじめの未然防止と不登校対策のための組織的な取組の推進	B	教育相談を始め日常からいじめの早期発見に努め、およそ8割の生徒が安心して過ごせると回答している。タブレット端末を活用した出席停止生徒や長期欠席者に対する学力保障の取組をさらに進めたい。	◇生徒一人ひとりに教室が「自分の居場所である」と実感させたい。また教室が「学びが保障された安心空間である」ような授業づくりを目指したい。この取組を進めることで不登校生徒を少しでも減らしていきたい。また、フリールームでの柔軟な対応も継続したい。							
特別活動	学校行事の充実	オープンスクールなどの機会を通じた地域に開かれた学校づくりの推進	B	体育大会、オープンスクール、校内音楽会を開催し、Live配信も行った。学校行事の充実に向けて、一定取組を進められた。今後行事の充実と精選に取り組んで行くことが必要である。	◇新しい教育活動の在り方を考え、これまでの慣例にしばられることなく、学校教育目標の達成の手段となりうる行事を可能な限り実施していく。	◇不登校の問題に関しては、学校だけでなく地域と協力した取組をすすめられればよいと思う。						
		クラスのなかまとも認め合い、支え合い、高め合える学校行事の実施	B	修学旅行や校外学習、音楽会などの学校行事等を実施し、限られた時間の中で工夫し効果的に練習した。どの生徒も積極的に練習し本番に取り組み、クラスのつながりを深めることができた。								
	生徒会活動・委員会活動の活性化	A	生徒の自主性を伸ばす生徒会活動や委員会活動の活性化	B			生徒会が企画立案した行事など主体的に生徒会活動や委員会活動に取り組み、自治力を身につけた。今後も、自己有用感を高める方策として行って行きたい。					
	キャリア教育	3年間を見通した系統的なキャリア教育の実践	B	1年生では2年生の職場体験に向けて学習に取り組んだ。2年生では職場体験を地域の強直を得ながら5年ぶりに実施することができた。								
部活動	仲間と共に活動し、充実感や達成感を味わえる部活動の実施	B	週2日以上以上の休養日を設けるなど生徒の健康に留意しながら、効果的な指導を行うことで十分な成果を挙げることができた。	◇部活動の方針を遵守しながら、健全な心と身体を育んでいきたい。	◇部活動の地域展開について今後も保護者や地域への説明を丁寧に行なって欲しい。							
開かれた学校づくり	学校情報の発信	学校情報・学校だより・学年便り・行事計画等のホームページへの掲載	B	ホームページを随時更新し情報発信のツールとして定着させた。保護者への案内はホームページ掲載やミマホームを活用した。	◇学校運営協議会で立案した方針や方向性を、コミュニティ協議会で熟議を行うことで実効性を持たせて、1つ1つ着実に実現させていきたい。	◇コミュニティスクールとして、これまで以上に学校とPTAやコミュニティ委員が協力し合い、地域に根ざした学校にしてほしい。						
	家庭・地域との連携	コミュニティスクールの始動と活動内容の充実	B	学校運営協議会は5回の会議を行い、学校の現状について説明し、理解を得た。コミュニティ協議会の協力や支援を得つつ学校運営を行うことができた。								

※評価はA・B・C・Dの4段階